

# 平成 30 年度 事業計画書

平成 30 年 6 月 1 日

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

# 平成 30 年度 事業計画

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

## 1. 協会活動方針

平成 30 年度の協会活動方針は、以下の通りとする。

- (1) 当協会は、CEATEC JAPAN、Inter BEE の開催にあたり、主催者との連携をさらに強化し、出展企業のビジネス機会の創出に貢献することを目指し、企画、運営に努める。  
また、Society5.0 を基軸に、業界団体が主催する国際ビジネス展示会としての機能強化に取り組む。
- (2) CEATEC JAPAN 変革を一層進展させ、日本の成長戦略や未来を世界に向けて発信する Society 5.0 の展示会として CEATEC JAPAN を積極的にアピールする。
- (3) Inter BEE の 3 ヶ年計画の中間となる 2018 年は、「メディア総合イベント」への発展を目指し、各種の取り組みを加速させる。
- (4) 会員企業ならびに出展企業の一層の拡大とサービスの向上に努めるとともに、事務の効率化と合理化を推進する。

## 2. 協会運営事業

総会、理事会、運営役員会等を次の通り開催し、当協会の運営に関する重要事項を審議し、各種事業を円滑に実施する。

- (1) 通常総会
  - ・第 13 回通常総会：平成 30 年 6 月 1 日（金）
- (2) 理事会
  - ・第 40 回書面理事会：平成 30 年 5 月 11 日（金）
  - ・第 41 回書面理事会：平成 30 年 6 月 1 日（金）
  - ・第 42 回理事会：平成 30 年 11 月 20 日（火）
  - ・第 43 回書面理事会：平成 31 年 3 月 26 日（火）
- (3) 運営役員会
  - 理事会への対応を始め当協会の重要案件審議のため、適時開催とする。

### 3. 展示会事業

#### 3-1 「CEATEC JAPAN 2018」

(1) 平成 30 年 10 月に「CEATEC JAPAN 2018」を幕張メッセ(千葉市美浜区)にて開催する。今年度で 19 回目を迎える CEATEC JAPAN は、CPS/IoT の革新技術が集結する総合展示会として、Society 5.0 の実現に向けて進みだした、産業・業種を越えた「共創」を世界に向けて発信する。開催テーマは「つながる社会、共創する未来」(英語表記:Connecting Society, Co-Creating the Future)、会期は 10 月 16 日(火)から 19 日(金)の 4 日間で開催する。

##### ① 開催基本計画

社会を支えるテクノロジーから、それらを活用するサービスまでが集結し、未来を見据えたコンセプトや新しいビジネスモデルを発信する「CPS/IoT の総合展」として「アジアのハブ」機能を備え、CEATEC JAPAN 2018 は、「政策」「産業」「技術」「海外」を戦略ポイントとする。

- ・政策：我が国が目指す産業のあり方を発信（レセプション/CEATEC AWARD）
- ・産業：異業種企業との共創（IoT タウン/SDGs 達成に向け取組み企業の紹介）
- ・技術：Society 5.0 を具現化するテクノロジーとマーケットを出展区分としてカテゴリ化  
出展区分の見直しを図り、出展の効果向上、見学効率向上を目指す。
- ・海外：グローバル規模で推進される「超スマート社会」への動きを CEATEC で発信  
グローバルエリア設置／諸外国の取組み紹介。

##### ② 出展区分/エリア構成

- トータルソリューション（全般）
- デバイス／テクノロジーを軸とする出展区分
  - ・電子部品／デバイス&装置
  - ・AI／ビッグデータ
  - ・5G
  - ・サイバーセキュリティ
- インダストリ／マーケットを軸とする出展区分
  - ・モビリティ／ロジスティクス
    - ・スマートファクトリー
    - ・スマートワーク
    - ・エネルギー／スマートライフ
    - ・フィットネス、ヘルスケア
    - ・エンターテインメント

##### ③ 主催者特別企画

主催者企画として、ユーザ企業がサービスを紹介する「IoT タウン」、次世代を担うベンチャー企業が出展する「スタートアップ&ユニバーシティエリア」、海外諸機関による「グローバルエリア」を展開する。

●IoT タウン

テクノロジーの観点から SDGs を達成し、持続可能な経済成長に向け、取り組む企業を IoT タウンで紹介する。革新技術を最大限活用し、人々の暮らしや社会全体を最適化した未来を発信する。

●スタートアップ&ユニバーシティエリア

「スタートアップ、大学、大企業そして投資家を結ぶ」をテーマに、成長を目指す設立 9 年以下のスタートアップ、研究成果の社会実装を目指す大学を対象とした展示エリア。起業家との座談会やネットワーキングイベントなどエリア限定のイベントを多数開催。

●グローバルエリア

米国、欧州、中国、インド、シンガポールなどのパビリオンや海外の企業やスタートアップを対象とした展示エリアを設置する。

④ コンファレンス

新生 CEATEC JAPAN の開催趣旨やメッセージに沿ったコンファレンスを企画し、コンファレンス独自のブランディングや魅力ある内容を来場者視点で発信する。

●KEYNOTE

・Special

2017 年までの「ゲストスピーチ」「キーノートスピーチ」にあたるキーノートセッション。各産業界をリードする企業経営者ならびに役職者が登壇する。

・Future

新生 CEATEC JAPAN を象徴する「未来」がテーマのキーノートセッション。「新産業時代」を担うフロントランナーである若手経営者が登壇する。

・Co-Creation

IoT タウン出展者をはじめとする異業種企業との共創をテーマにしたキーノートセッション。共創を担当する事業推進責任者が登壇する。

●SESSIONS

・Technical : 主にテクニカルトピックを扱うコンファレンスセッション。

・Trend : 主にトレンドトピックを扱うコンファレンスセッション。

・Business : 主にビジネストピックを扱うコンファレンスセッション。

・リアル未来会議 : ある 1 つのテーマやプロダクトを設定し、登壇者と来場者が未来を一緒に考える双方向参加型のパネルディスカッション

●併催

・ICT イノベーションフォーラム

・電子情報通信学会

・VCCI

・5G

・3GPP

⑤ 各種連携事業の取り組み

- IoT 推進コンソーシアムの関連事業とのタイアップ、サポートを図る。
- 東京オリンピック・パラリンピックの関連組織と連携し、2020 年に向けた社会へのメッセージ等を発信する。
- 「All about Photonics」 InterOpto、BioOpto Japan、LaserTech、LED Japan、MEMS センシング&ネットワークシステム展と同時期開催（10月17日～19日）する。

さらに、世界規模で推進される、「CPS/IoT Exhibition」の更なる拡大と発展に向け、Society5.0 の実現に向けて世界感を産業横断的にオールジャパンでアピールできる場として、持続的な産業発展への一助となるべく、関連産業、関連団体等との連携を図り、その在り方と中長期的な着地点を見出す活動を向上させる。

⑥ 海外来場者／プレスの誘致

各国大使館、各国業界団体（主催団体のカウンターパート団体）、CEATEC JAPAN の海外パートナーを通じ、視察ミッションの醸成による来場誘致を図る。  
また、欧米の有力メディアを対象に実施していたメディアツアーをアジア（中国、台湾、香港）にも拡張し、海外メディアの誘致を更に強化する。

(2) 「CEATEC JAPAN 2018 実行委員会」を年8回開催し、本年の実施計画を立案する。

また、実行委員会の傘下に中長期戦略の検討に関する専門委員会を設置し、具体策の検討、課題検証、今後の対策検討等を行う。

### 3-2 「Inter BEE 2018」

- (1) 平成 30 年 11 月 14 日（水）から 11 月 16 日（金）までの 3 日間、千葉市・幕張メッセにて開催する。

昨年の Inter BEE は、はじめて幕張メッセ 1～8 ホールの全館を使用し、1,139 社が出展、コンファレンスは 102 セッションを実施し、開催 3 日間の来場者数は 38,083 名と、いずれの実績値においても過去最多の規模で開催し成功裏に終えた。2018 年も引き続き盛会とすべく以下の各施策に取り組む。

#### ① 開催スローガン

「WHAT WILL YOU DO NEXT? 新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」

Inter BEE は、1964 年の東京オリンピックの翌年から開催。この半世紀にわたり、放送メディアは白黒からカラーへ、アナログ（SDTV）からデジタル（HDTV）へと成長発展を重ね、昨年から 4K・8K 放送への新たなスタートを切った。

Inter BEE は、世界から日本に注目が集まる 2020 年に向け、「新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」という思いをスローガンに掲げて開催する。

#### ② 開催基本計画

2017 年から東京オリンピック・パラリンピックの直前開催にあたる 2019 年までの 3 ヶ年をひとつのスパンとして捉え、超スマート社会「Society5.0」の実現に向けてメディア&エンターテインメント産業の新たなユーザ体験を提示する場として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、「つくる（制作）」「おくる（伝送）」「うける（体験）」の要素を網羅した「メディア総合イベント」に発展することを目指し、2018 年はその取り組みを加速させる。

#### ③ 新 4K8K 衛星放送の開始

2018 年 12 月 1 日に開始される「新 4K8K 衛星放送」の周知・広報をはじめ、放送・通信事業者やコンテンツ制作者に向けた映像・音響に関する新技術の提案を更に進める。

#### ④ 第 5 世代移動通信システム（5G）の可能性を訴求

2020 年にサービス開始を目指す「第 5 世代移動通信システム（5G）」のユースケースとして期待されるメディア&エンターテインメント分野での活用の可能性を訴求する。

#### ⑤ 特別企画

##### ●INTER BEE IGNITION

VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、ホログラム等の映像表現技術や、ライブエンターテインメント技術を集め、新たな映像体験を訴求する企画を展開する。

##### ●INTER BEE CONNECTED

番組同時配信、キー局のネット戦略、OTT 最新動向、視聴計測技術等、メディアビジネスの最新動向を集約して情報交流を促進する展示とセッションを展開する。

##### ●INTER BEE EXPERIENCE

恒例となった SR スピーカー体験デモと、高品質なヘッドフォンとマイクロフォンの試聴デモを展開し、来場者に体感していただく。

##### ●INTER BEE CREATIVE

ヒット作品のメイキング映像等を本企画限定で披露し、第一線で活躍する監督やクリエイターによる制作秘話や、最新の制作ツールの活用事例等を紹介する。

⑥ デジタルコンテンツ EXPO 2018 を同時開催

今開催では、これまで日本科学未来館（東京・江東区）で開催されてきた最先端コンテンツ技術の国際イベント「デジタルコンテンツ EXPO」（主催：一般財団法人デジタルコンテンツ協会）を Inter BEE 会場内で同時開催する。

コンテンツの制作支援や表現を豊かにする多様な技術を紹介し、未来を体験いただくとともに、コンテンツ技術のメディア&エンターテインメント分野への活用を促進させる。

(2) 「Inter BEE 2018 実行委員会」を年間6回開催し、昨年度までの反省点、改善点を明確にし、本年度の運営に反映させる。効率的な BtoB 展示会の機能をさらに強化すべく、以下を実行・推進する。

① ビジネス交流の促進

開催初日には、エグゼクティブ向けのビジネス交流の場として、「レセプションパーティ」を実施する。ユーザ層の参加増を更に強化する。

② 技術交流の促進

国際的な技術フォーマットの講演を企画するほか、民放技術報告会など、テクニカルセッションを積極的に PR し、エンジニアの来場誘致を強化する。

③ 情報交流の促進

一般社団法人日本映画テレビ技術協会、一般社団法人日本ポストプロダクション協会をはじめとする、関連団体との情報発信・交流をさらに推進する。

④ 国際交流の促進

グローバルパートナーとのリレーションシップを活用し、アジアを中心としたステークホルダーの来場誘致を促進させ、海外来場者の構成比率増を目指す。

⑤ 人材交流の促進

次世代育成を目的として、2020年以降のトレンドを見据えた話題性の高い企画を展開する他、SNSの活用や団体登録などによる学生の来場増を目指す。

(3) 実行委員会の下に企画ワーキンググループを設置し、国際会議場にて実施する講演会を「INTER BEE FORUM」として、Inter BEE が指し示すべき全体の方向性やテーマを当企画 WG にて検討しプログラム化する。

また、展示ホールやイベントホールで実施する以下の各企画を TG 化し、TG で推進する企画の横連携、棲み分け、情報共有の場として活用する。

さらに、Inter BEE 実行委員会の検討枠外で実施される民放技術報告会とも連携を図る機関とする。

① INTER BEE IGNITION TG

② INTER BEE CREATIVE TG

③ INTER BEE CONNECTED TG

④ INTER BEE EXPERIENCE TG

#### 4. セミナー／コンベンション事業

近年、映像・情報・通信・放送サービスや社会システム等の IT 関連産業において、その製品やサービスの技術的訴求や販売促進活動、顧客開拓活動等は、対象者を明確に特定したセミナーやコンファレンスを主体としたイベントの活用が新たな潮流となってきた。

これら技術訴求活動・ビジネス活動での「セミナー／コンベンション」は、企業がセミナーやコンファレンスのセッションスポンサーとして参加しセッションを実施することにより、不特定多数が来場する展示会では訴求しきれない製品・技術のプレゼンテーションを効率的に行うことが可能であり、また、ビジネスマッチング等の人的交流機会づくりなど IT 関連産業における重要なビジネスコミュニケーション活動の場となっている。

当会では、これらの動向を受け、企業のビジネスコミュニケーション活動を支援し、最新の技術・製品・サービスによるイノベーションと市場開拓、市場活性化により、関連産業界の進展に寄与すべく、事業主体として、「セミナー／コンベンション事業」に積極的に取り組むこととする。

セミナー／コンベンション事業の概要

- ①会場：集客利便性の高い都市部のホテルやセミナー会場等を開催場所とする。
- ②企画構成：参加企業によるセミナー、コンファレンスのセッションを主体に、小規模のカウンター展示およびビジネスマッチングイベントや懇親会等の人的交流の場などを付帯
- ③企業参加システム：セッション枠とカウンター展示の購入を主体としたスポンサーシステム
- ④来場参加システム：Web 登録を基本とした全来場者登録制
- ⑤国際会議運営：会議参加費収入および企業スポンサーによる会議運営を主とする。

##### 4-1 「The 6th After NAB Show Tokyo 2018」

主催・運営：一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

共同主催：NAB 東京事務所（映像新聞社）

当該年度のアメリカ・NAB で発表された製品・技術のセミナー、展示を国内で行う NAB 公認イベント。6 回目の実施。

時期：平成 30 年 5 月 23 日（水）・24 日（木）

場所：秋葉原 UDX

開催規模（見込み）：セミナー参加・出展企業 50 社、参加者 2,600 人

##### 4-2 「第 24 回アジア南太平洋設計自動化会議（ASP-DAC 2019）」

主催：ASP-DAC2019 実行委員会

運営：一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

LSI 設計および設計自動化技術の国際会議。JESA が運営事務局を受託。

時期：平成 31 年 1 月 21 日（月）～24 日（木）

場所：日本科学未来館

開催規模（見込み）：参加者 450 人



## 5. 国際連携活動

(1) 当協会が運営する展示会の国際化の促進を図るため、次の海外関連展示会の主催団体等と広告、プレスコンファレンス、出展誘致などの相互協力を行うとともに、各展示会の情報収集活動を行う。

①CEATEC JAPAN グローバルパートナー

Consumer Technology Association (CTA)/International CES (USA)

Messe Berlin / IFA (Germany)

Messe Munchen International /

electronica (Germany), electronica & Productronica (China)

Deutsche Messe / CeBIT (Germany)

②CEATEC JAPAN アジアパートナー

China Electronic Appliance Corporation (CEAC) \*

Hong Kong Trade Development Council (HKTDC) \*

Korea Electronics Association (KEA) \*

Taiwan Electrical and Electronic Manufacturers' Association (TEEMA) \*

China Council for the Promotion of International Trade, Electronics & Information Industry Sub-Council (CCPIT ECC)

China International Software & Information Service Center (CiSiS)

The Hong Kong Electronic Industries Association (HKEIA)

Taiwan External Trade Development Council (TAITRA)

\* : AEECC (Asia Electronics Exhibition Cooperate Conference) 構成団体

③Inter BEE グローバルパートナー

International Association of Broadcasting Manufacturers (IABM)

Asia-Pacific Broadcasting Union (ABU)

Taiwan Electrical and Electronic Manufacturers' Association (TEEMA)

National Association of Broadcasters (NAB), Las Vegas

International Broadcasting Convention (IBC), Amsterdam

China Content Broadcasting Network (CCBN), Shanghai

Beijing International Radio, TV & Film Equipment Exhibition (BIRTV)

Broadcast Asia (BCA), Singapore

Hong Kong International Film & TV Market (FILMART)

Korea International Broadcast, Audio & Lighting Equipment Show (KOBA)

CASBAA Satellite Industry Forum, Hong Kong

Broadcast India

SET Expo Sao Paulo Exhibition and Conference

SMPTE Australia Conference and Exhibition

CABSAT, Dubai

China Council for the Promotion of International Trade (CCPIT)

Prolight + Sound Guangzhou

Prolight + Sound Shanghai

(2) アジアの関連展示会との交流および主要展示会関連団体との会議を行う。

「AEECC (Asia Electronics Exhibition Cooperate Conference)」

日程：2018年11月下旬

場所：東京近郊予定

以 上